

「自律」「尊重」「挑戦」をキーワードにした歩み

～ 「新聞クイズ」のその後の取組 ～

福山市立大谷台小学校

校長 四良丸 優子

「好きなことを続ける。興味あることをやってみる。そのことを続けていくと得意なことになる。」という話をして今年度のスタートを切りました。

まず初めに、興味あることを見付けるために、毎日文字に触れる、文章を読むことを楽しんでほしいと考え、4月の中頃から、新聞記事を読んでクイズに答える「新聞クイズ」を始めました。現在6年生が継続し、今は自分の考えを書く活動に進化しています。また、4年生では、視写して問題に答える様式「にゅべわし」を始め、この3学期は全校で取組むことになっています。

次に、本校玄関に「ことば知っ得コーナー」を設置しました。このコーナーは毎日使っている言葉やその意味を解説したり、ことわざや詩を紹介したりしています。そして、言葉に関連する多くの本を集めて貸し出しできるようにしています。いかに日常生活の中で言葉を使う場面を多くするか、語彙を増やし使うということにこだわり、始めました。現在、言葉に興味を持つ入り口として、本の中から言葉に関するクイズを出題し、解答を募集しています。今後は「大谷台ショータイム」で俳句や詩の発表コースや暗唱コースを設定する予定です。



貸し出しコーナーに置いていた「12歳までに知っておきたい語彙力図鑑(齋藤孝・著・日本能力協会マネジメントセンター)」を借りた〇さん。自学自習として、お気に入りの言葉や言われて嬉しくなる言葉を集めてまとめて、お手紙を書くときに使うようにしているということです。興味を持って始めた子がいる、それだけでとても嬉しいことでした。そんなある日。「誕生日プレゼントで買ってほしいものは何かと聞かれたから語彙力図鑑をお願いしてプレゼントしてもらった。」ということです。言葉と出会い、楽しんでいるこの様子がとても微笑ましく、喜ばしい出来事です。

好きなことを見付ける、まずは興味あることから始める、そのきっかけづくりと語彙力アップ、思考力向上を目指しています。何に興味を持ち、何に取組んでいくか、子どもたちの持っているその可能性や力は無限です。その一歩にもつながることを願って、これからもいろいろなチャレンジをしていきます。